



SALVATIONIST

とぎのこえ

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)



二〇二四年三月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

陽春号

広報版

2024

March-April

No.2867

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
力強い御業を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威光
驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

詩編 145 編 4、5 節



克己週間 3月1日～15日
受難日 3月29日(金)
イースター 3月31日(日)

ときのこえ SALVATIONIST

陽春号 広報版
2024 March - April
NO.2867

もくじ

■メッセージ	最後を決めるイースターの言葉 大将 リンドン・バッキンガム3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第31回	ジョン・ウェスレーの聖潔 —心うちに燃えて— 少佐 丸畑 幸夫4
■集会報告	伝道事業部長及び副伝道事業部長による 関東東北連隊キャンペーン5 初野戦6
■災害対策室リポート	令和6年能登半島地震を受けて6
■各地のニュース!!	渋谷小隊、福岡小隊、NewHope 麻布7 函館小隊、仙台小隊、京橋小隊、呉小隊8
■証言	兵士入隊をして 永尾晶仁兵士
■各地のニュース!!	札幌三園、札幌小隊9 東京東海道連隊10
■YP(青少年部)・ファミリーニュース	静清小隊、帯広小隊、東京東海道連隊11
■社会鍋による支援	江東小隊、杉並小隊、横浜小隊12
■〈連載・第25回〉	神の呼びかけ～神の民となるために～ (9) この世で生きることへの呼びかけ (10) 信仰を養うことへの呼びかけ13
■救世軍見解表明	社会道德に対する救世軍の立場 第11回「死刑」(2)14
■召天記事、救世軍公報	15
■各地の社会鍋アルバム	16



@SAArmyJP



SAArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名

ご住所

表紙の写真:(上) 能登ヘルプ事務局
局で (中) 2月7日 内灘聖書教会
(下) 同日 輪島市門前中学校
での食事支援(記事6ページ)

メッセージ

最後を決めるイースターの言葉

大将 リンドン・バツキングラム



イエスの十字架と復活の物語に登場する人物たちは、思いが皆バラバラだった。

ローマ総督ポンテオ・ピ

ラトは、自分が担当する行政区で起こることはすべて、自分に最終決定権があると思っていた。ローマ帝国の中でユダヤは問題の多い属州だったが、それでもピラトは自分の権威を疑わなかった。平和を守るために無実の人間を処刑する必要があると思うならそうすればいい。だからそうした。ピラトは十字架という当時頻繁におこなわれていた死刑をイエスに言い渡した。イエスが絶命したと聞いたピラトは、ユダヤ教の指導者たちに最後の指示を発した。「あなたたちには、番兵がいるはずだ。行って、しっかりと見張らせるがよい。」(マタイ27・65)

見張った。ピラトは、イエスの物語を終わらせる最終的な決定者は自分であることを確信していた。イエスの母マリアは、愛する息子の苦しみを目にする恐ろしさを知っていた。イエスへの迫害が高まるのを目にして、恐ろしいことが息子に起こるかもしれないとマリアは毎日恐れていた。やがてイエスの強力な敵が動き出した。息子が逮捕され、殴打され、拷問され、屈辱に耐えているという話がマリアの耳に届いた。息子が苦しみを味わっていることを知り、マリアは無力さを痛感した。息子を救うためなら命も惜しまなかった。母である自分のできることは、最後の苦しみを息子一人に迎えさせたくないという思いから、そばに行つて臨終を見守ることだった。イエスが息を引き取るとき、マリアは十字架のそばにいた(ヨ

ハネ19・25)。絶望に打ちひしがれたマリアは、息子の耐え難い死によってイエスの物語の最終章が閉じられたと思った。

ペトロは自分の人生が終わったことを知っていたし、そうなるって当然だとも思っていた。結局のところ、ペトロはイエスを一度ならず、二度ならず、三度も裏切った。イエスがペトロを最も必要とした時に、ペトロは惨めな仕方で失敗した。鶏が鳴いた後、ペトロはイエスの言葉

「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」

を思い出し、敗北感に打たれ、激しく泣いた(マタイ26・75)。これほどの圧倒的な絶望をペトロは知らなかった。たとえ他人がイエスを裏切っても自分だけは絶対に裏切らない、と友であり師でもあるイエスに約束していたにもかかわらず、一人の女中の執拗な追及によって

ペトロの心は崩れた。イエスを裏切ったことで、ペトロは過去三年間にわたり自分の喜びとなってきた働きを失った。自分がイエスの弟子であることを繰り返し否定し、イエスが十字架上で死を遂げる姿を目にして、イエスの物語における自分の場所が消えた、とペトロは思った。

しかし、物語は終わっていない。非常に重要なことを彼らは忘れていた。

世界で最初のイースターの朝、誰もがイエスの物語は終わりを告げたと思い込んでいたとき、天の父は誰も書いたことのない最も力強い章を書き始めた。墓の入り口の大きな石は転がされ、ローマ帝国の封印は破られ、番兵たちは恐れおののいた(マタイ28・2・4)。これは、地上のいかなる人間や権力も、最後を決める神の言葉を邪魔できないこ

とを示している。イエスは復活した。その力強い事実によって、すべてが変わった。ピラトにも、ピラトが発した命令にも、神の子イエスと弟子たちを終わらせる権威はなかった。マリアは、息子の死が終わりではなく、人類に対する神のほとばしる愛の物語の始まりとなるのを見た。ペトロは、イエスを裏切ったにもかかわらず、イエスの福音が自分の期待と想像をはるかに超えて世界に広がっていくのを見た(ヨハネ21・15・19)。

あなたは今、もしかしたら、人生で困難な状況に直面しているかもしれない。だが、確信してほしい。どんな敵も、どんな状況も、全能の神の言葉には逆らうことはできない。

あなたは今、もしかしたら、愛する人が深く苦しんでいて、その痛みを和らげたり傷を癒したりすることが、あなたにはできないと感じているかもしれない。しかし、神の言葉は、恵みと希望と究極の勝利に満ちている。

あなたは今、もしかしたらペトロのように、自分には神に用いられる価値がないと感じているかもしれない。

い。自分は神を見捨てたと思っていたのに、今は神が自分を見捨てたと思っているかもしれない。しかし、これだけは確かである。最後を決める言葉を語るのには神である。その言葉は、回復と再生の力強い言葉である。もしかしたらペトロのように、これから世界に広がる働きがあなたから始まるかもしれない。そうならないとは誰にも言えない。

今年のイースターに、イエスの物語は終わりではないこと、そして、最後を決める言葉を語るのには神であること、それは勝利の言葉であることを、もう一度宣言しよう。それは、神に立ち向かうどんな敵よりも神は偉大であることを思い起こさせる、勝利の言葉である。それは、心うちひしがれ傷ついている人々に対する恵みと希望の力強い言葉である。それは、神の贖いの恵みが及ばない罪はないことを思い起こさせる、回復の言葉である。

最後を決める言葉を神が語る。それは勝利の言葉である。

イースターおめでとう！

(万国総督)

連載

聖潔の流れに立つ 第三十一回

ジョン・ウエスレーの聖潔
―心うちに燃えて―

少佐 丸畑 幸夫

(承前)そして、二人とも英国国教会の牧師となり、信仰覚醒運動に励み、諸所の教会で説教した。しかし、国教会側は彼らの説教の熱に不満であり、ついにメソジストと呼ばれる彼らに対し、その講壇を閉鎖してしまった。

ウエスレーたちは、福音的回心と聖書の聖潔を説教し始めたが、英国国教会は異議を唱えて、国教会条例に反するものとしてウエスレーたちに門戸を閉ざした。それというのも、国教会が認めない教職者を採用したことに原因があった。

ホイットフィールドもウエスレーも、祈りの中に働く聖霊の力を感じていた。

ウエスレーはキリスト教を一つの哲学的思索の道においてとらえるのではなく、自分自身が体験した神の愛、神の恩寵としての宗教としてとらえた。彼は「行動家」であったから、カーライルが「メソジストは自分の臍ばかり凝視している」と言ったのは、酷な見方である。キリストを通して流れ出る神の愛とまなざしを基調とするメソジスト運動の綱領については、その著『理性と宗教に対して真剣な人々に訴える』の中に記している。

またウエスレーには、多くの著述があるが、ベンゲルやルターら諸学者に負うところが少なくない。

しかしながら、ルターに見る「敬虔」は否定できないが、ドイツ敬虔主義者とは異なるものを見ている。『キリスト者の善行論』に記されている敬虔は、敬虔主義者が用いる言葉が多く使用されているものの、「信仰は、もう善行をなしている」とする点などは、方向性が違っている。

ウエスレーの「聖霊の促し」による「敬虔と燃える心」、カルヴァンの言う「神の恩寵と栄光」そして「賛美」、ルターの言う「信仰による義」など、宗教改革者の立場は過去の精神的遺産(アウグスティヌス、エラスムス等)を注意深く保持している。

また、ウエスレーは律法が「自分の罪を自覚させ、キリストに連れて行く養育係である」とともに、「生まれ変わった人間を利益ある方向に向かわしめる」と二方向を認識している。しかし、救いはキリストがくださるもので、律法が与えてくれるものではない、とその区別を明瞭にしている。

古代ギリシア・ローマ時代の思想は、宗教改革時代にも遺棄されることなく、「人文主義」とか「ルネサンス」とかキリスト教的な「復活」や「再生」の意味を含めて用いられている。十全ではないとしても、新プラトン主義がキリスト教人文主義に評価されていることは否めない。アウグスティヌスはヒューマニズムを肯定しつつも、彼の著『神の国』の中で人間性の危険について見逃してはいない。

メソジストは自らの教会内におけるヒューマニズムに対しては、人間の墮落に注意することを説いた。

十一、燃える心の実

A. 実践的キリスト教

ヒルティは言う。「実行なきキリスト教は価値がない」と。ウエスレーの信仰も次第に実践的な方向へと成長していった。

貧民銀行を造ったり、失業者のために鋳物工場・授産工場を造ったりした記録が残っている。社会事業とキリスト教が結ばれるという特異な時代を迎えよう

としていた。十八世紀後半の英国社会において、メソジストが急速に成長したのは、産業革命が与えた刺激が社会に内在したためである。

ウエスレーが今しばらく生きていたならば、本格的な社会事業を始めたであろうことは想像がつく。ウエスレーの死後、彼の後継者たちは、これを継続しなかった。そういう意味で、この方面の後継はウィリアム・ブースがしたとの論評は当たっている。

またウエスレーは巡回伝道に力を入れた。その時、ウエスレーを慕う人々がグループづくりを始めた。この小さなバンドは、ウエスレーがかつてモラビアン兄弟団の組織から学びとったものであり、ここから借用したものである。そこでウエスレーは会員券を発行し、集会に来る時、それを持参するように奨め、次第にグループ制をより強固なものにした。そのグループの人たちは、たとえウエスレーがそこに出席していない時にも互いに力を合わせ集会をした。そのため、会員券を持つことが極めて名誉なこととなった。

それは救世軍の小区集会の先駆けとなった。ブース夫妻は結婚する前からそれぞれにウエスレーを、一預言者と言わんばかりに尊敬していたので、救世軍の様々なところにウエスレーの影響が見られる。小区集会や巡回伝道・慈善事業等はその例であろう。救世軍が創設すると直ちに「スーパと石鹼と救い」を配布し始めたことは、苦しむ者の涙をぬぐうことを宗教の大切な要素として、これをウエスレーから学んだのである。

B. プラグマティズムと主観主義

ウエスレーのキリスト教を原理的に支配するものは体験主義であった。

十九世紀から二十世紀にかけて、アメリカの哲学者で欧米の哲学に新風を吹き込んだウィリアム・ジェイムズは、その著『宗教経験の諸相』の中で、観念の真理は、それを行動に移した結果の有効性によって明らかにされるというプラグマティズムを提唱した。

集 会 報 告

伝道事業部長石川和男少佐及び副伝道事業部長石川節子少佐による 関東東北連隊 キャンペーン

2023年6～7月、9～10月、2024年1月

伝道事業部長及び副伝道事業部長による関東東北連隊キャンペーンは、昨年6～7月、9～10月、2024年1月にかけて日曜日ごとにおこなわれました。

6月4日(日) 佐野小隊—聖別会は吉田慎也中尉が司会、伝道事業部長は「涙をぬぐわれる神」(ルカ7:11～17)と題してメッセージをしました。昼食会後、午後からは、佐野小隊共同墓地の小隊納骨堂前にて、献花の時をもちました。(聖別会13人、墓前献花5人)

6月18日(日) 桐生小隊—聖別会は成演宇軍国特務曹長が司会、副伝道事業部長が証言をし、伝道事業部長は「父の御心を行う」(ヨハネ5:19～30)と題してメッセージをしました。聖別会後、学び会、歓迎愛さん会の時をもちました。(会衆14人)

6月25日(日) 前橋小隊—聖別会は田口哲也少佐の司会、後藤弘吉曹長より歓迎の挨拶がありました。副伝道事業部長が勧話をし、小隊有志による合唱で賛美の音が響きました。伝道事業部長は「神の家」(使徒2:43～47)と題してメッセージをしました。聖別会後、コロナ禍以来の昼食会がもたれ、良き交わりの時となりました。(聖別会17人、子ども2人、恵の座3人、昼食会19人)

7月2日(日) 高崎小隊—聖別会は、伝道事業部長も加わっての小隊バンドによる奏楽がなされました。細貝信義少佐が司会、副伝道事業部長が証言。伝道事業部長は「わたしたちの光」(マタイ5:13～16)と題してメッセー

ジをしました。聖別会後、自己紹介と共に愛さん会の時をもちました。(会衆13人)

9月24日(日) 熊谷小隊—人身取引被害者のための世界祈祷日でした。田口哲也少佐が司会をし、オンラインで前橋小隊とつなぎ、合同で聖別会を守りました。伝道事業部長が証言、副伝道事業部長は人身取引対策室長として、「わたしは彼らの叫びを聞いた」(出エジプト2:23～25)と題してメッセージをしました。聖別会後、昼食会の時をもちました。(会衆6人)

10月15日(日) 新潟小隊—女性サンデーの聖別会を中川八重子少佐の司会でおこないました。席上、「きずな献金」献納式がおこなわれ、ミャンマーの人身取引防止のための働きを覚え献げました。伝道事業部長は挨拶と勧話をし、副伝道事業部長は「キリストの香り」(マルコ14:3～9)と題してメッセージをしました。(会衆20人) 聖別会後、歓迎愛さん会では自己紹介の時をもちました。

10月29日(日) 長野分隊—宮下充貴分隊長の準備により、聖別会では副伝道事業部長が証言、伝道事業部長が「神の家を建てる」(コリント3:10～17)と題してメッセージをしました。(会衆5人) 昼食を共にいただいた後、中島加代子兵士宅にて交わりの時をもちました。その後、山岸益子兵士宅の果樹園を案内いただきました。

11月22日(水) 士官会—オンラインにて開催。連隊長細貝信義少佐が司会、眞鍋恵中尉が証言をし、副伝道事業部長が勧話、伝道事業部長がメッセージをしました。

2024年1月21日(日) 仙台小隊—10月の予定を変更しおこないました。聖別会では副伝道事業部長が勧話。「たけのこバンド」の賛美に続いて伝道事業部長は「キリストをまとう」(ローマ13:11～14)と題してメッセージをしました。聖別会後、昼食会では自己紹介の時をもち、最後に「たけのこバンド」と伝道事業部長が賛美を献げました。(会衆16人、子ども2人)

士官不在の中で小隊を守る戦友方、高齢ながらも小隊に集われる戦友方に、高齢化・士官不足の現状を見ると同時に、奨励を受ける時でもありました。そして新たな人々が導かれていることに、神の祝福が次世代へと受け継がれていることを実感しました。(伝道事業部報)



前橋小隊



熊谷小隊



新潟小隊



長野分隊



仙台小隊



士官会

集会報告

初野戦

1月2日(火) 13時30分 上野公園カエルの噴水前

3年ぶりに上野公園で開催しました。小雨模様の午後でしたが、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の楽の音が公園に響き、通りがかった人々に福音を語ることができました。

伝道事業部長石川和男少佐が司会し、今年のテーマソングを歌い、書記長官西村保大佐補は昨年中の社会鍋に

対する感謝と報告をし、ヨハネ3:16の御言葉よりメッセージを語りました。JSBの両脇に社会鍋スタンドを二基設置し、折しも1月1日に発生した、能登半島地震被災地支援のための義援金を募りました。しもべあのペーくんも社会鍋に立ち、多くの方々と交流しました。社会福祉部長石川一由紀少佐が日本語と英語で募金をアピールし、合計で56,292円が寄せられました。(会衆109人)



災害対策室レポート

●令和6年能登半島地震を受けて

1月1日(月)午後4時10分に、「令和6年能登半島地震」(以下、「能登地震」と表記)が発生しました。

地震発生地に近い新潟小隊は、本棚が倒れた程度の被害で、戦友も無事であったとのこと。長野分隊も大きな揺れはあったものの、被害の報告はありませんでした。

救世軍は、石巻クリスチャンセンターの現地ディレクターであるスティーブン中橋氏を、キリスト全国災害ネット(全キ災)の要請に応え、現地での情報収集やボランティア・コーディネートをおこなうために派遣する費用負担を救世軍中央災害資金から支出することを決定しました。また、下記のメンバーの現地への派遣を実施しました。

・児童家庭支援センター明日葉の吉田有センター長一内灘聖書教会(石川県)へ派遣

石川県放送伝道協会が主体となり、能登地震の救援事務局を立ち上げ、1月10日(水)内灘聖書教会にて会合をおこないました。石川県放送伝道協会のメンバーに加え、全キ災代表の北野献慈師、世話人の横田法路師がアドバイザーとして加わり、救世軍本営は、全キ災の呼びかけに応え、この会合に吉田有センター長を派遣しました。(派遣期間:1月10～11日)会合の結果、キリスト教会が協力・協同して救援にあたる「能登地震キリスト災害支援会」(通称「能登ヘルプ」)を立ち上げ、情報収集と具体的な支援の計画立案をおこなうこととなりました。ベース・リーダーとして九州キリスト災害支援センター(「九キ災」)の市來雅伸氏が立てられています。

・男子社会奉仕センター・災害対策室(臨時)の玉井芳樹職員一内灘聖書教会へ派遣

能登地震被災地への救援活動をおこなうにあたり、本営は、男子社会奉仕センターの玉井芳樹職員を情報収集要員

として、災害対策室メンバー(臨時)として任命し、派遣しました。(派遣期間:1月10～16日)

玉井職員は、市來ベース・リーダーの要請により、事務局内の現地で必要とされている事務や、支援物資の配送等の迅速な対応に従事しました。玉井職員からの情報は、災害対策室の堀浩明室長補佐が取りまとめています。なお玉井職員は、継続的に能登ヘルプにおける業務をおこなうため、1月29日(月)～2月10日(土)に再度、内灘聖書教会に派遣されました。

スティーブン中橋氏は、現地入り後、すぐに支援のコーディネートを開始、災害時に的確に現状を把握してボランティア・コーディネートのできる専門家として、能登ヘルプの中で活動をおこなっています。

●緊急社会鍋

1月17日(水)～19日(金)、渋谷道玄坂にて能登地震被災地支援活動のための緊急社会鍋を士官、兵士、本営・病院・施設の職員、ジャパン・スタッフ・バンド、外部の協力者の協力のもとおこない、163,753円の献金が寄せられました。(16ページに写真掲載)全国の小隊、一般の個人からの献金も届いており、活動資金として用いられます。

●食事(炊き出し)支援

2月6日(火)～8日(木)の日程で支援活動をおこないました(6日、8日は移動日)。2月7日(水)、輪島市門前中学校にて、中学校に避難されている方々及び近隣の方々を対象に昼食(野菜炒め、肉じゃが、ごはん)300食を提供しました。関東東北連隊長・災害対策室東北地区担当細貝信義少佐をリーダーに、関東東北連隊、本営、広島地区の士官、施設・本営職員13人が現地向かい、すでに現地に派遣されている玉井職員と共に支援活動に携わりました。(表紙に写真掲載)

被災者、救援・支援にあたる方々を覚え、引き続きお祈りください。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

渋谷小隊

●クリスマスコンサート

2023年12月10日(日)
午後2時30分より、渋谷
小隊を会場にヴァイオリ
ン、チェロ、ピアノによ

るクリスマスコンサートがおこなわれました。賛美歌からクリスマスの曲まで、その美しい旋律に一同クリスマスの喜びに満たされました。コンサートは勝笹隆大尉の司会で進められ、演奏に加えて



ピアニストの浅野あゆみ兵士(横浜)による恵みの証言、
勝笹実香大尉によるクリスマスメッセージがありました。

戦友とそのご家族、友人をはじめ、近隣からも多くの方が来場されました。またコンサート終了後、社会鍋の
アピールに応じて多くの方が献金をしてくださいました。
(参加者72人、社会鍋献金34,000円)



福岡小隊 ●クリスマスコンサート

12月10日(日)午後2時から、福岡県を拠点に活動する英国式ブラスバンド「福岡フローリッシュブラス」(FFB)をお迎えして、クリスマスコンサートを開催しました。FFBは練習会場の一つに福岡小隊を利用され、多くの救世軍のブラス作品を演奏しておられます。また、団員から福岡小隊の給食支援のために、日用品等の献品をしてくださっています。

コンサートは、クリスマスの曲を中心に、荘厳な作品や、スイング調の作品など、レパートリーに富んだ内容でした。この日を覚えて久しぶりに来られた関係者や楽団員の友人方もあり、楽しいひと時でした。また、当日の午前は、FFBメンバーの有志が奏楽にご協力くださり、豊かな音楽聖別会として尊い時間をもつことができました。聖別会とコンサートは、それぞれ小隊士官松末泰志大尉が司会とメッセージをしました。(聖別会18人、コンサート45人)



NewHope 麻布 ●クリスマス会

12月16日(土)午後5時より、渋谷小隊を会場に New Hope 麻布のクリスマス会をおこないました。子どもから大人まで68人の方が参加してくださり、その中でも半分以上は教会に足を踏み入れるのが初めてということでした。子どもたちによるろうそく点灯、アンサンブルバンドの演奏、スタッフと子どもによる合唱などでクリスマスの音楽を楽しみました。

「クリスマスプレゼント」をテーマに伝道事業部長の石川和男少佐がメッセージをし、救い主イエス様の御降誕は私たちにとって最高のプレゼントであるということ、参加者の皆さんと喜び分



かち合うことができました。

交流会では軽食をとりながら、ダンス、コルネット演奏などの発表会もおこないました。クリスマス会のためにたくさん練習を重ねてきたダンスの子どもたちは、「次の発表会はいつですか？」と前のめりになって意気込みを見せてくれました。このクリスマス会を通して New Hope のミニストリーが教会と地域の架け橋となっていると感じ、神様に感謝しました。(New Hope 麻布報)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

函館小隊

●准兵士宣言

2023年12月24日
(日) クリスマスサンデーは連隊長石坂臣司少佐が出陣、聖別会では

キャンドルサービスをし、クリスマスの意味を味わいました。席上、岩野理恵さんと高木知子さんの准兵士宣言がおこなわれました。



岩野さん(向かって左)と高木さん(右)

仙台小隊

●兵士入隊式

12月24日(日)クリスマスサンデーの中で、永尾晶仁さんの兵士入隊式がおこなわれました。試練を通して、神様からの慰めと恵みが与えられたこと、その経験があったからこそ兵士入隊への決断をすることができたと証しました。(9ページに掲載)そのあと、竹中バンドをバックに晶仁さんが「土の器」の



賛美を力強く導き、一同、神様への心からの感謝と賛美を献げました。

京橋小隊

●兵士入隊式

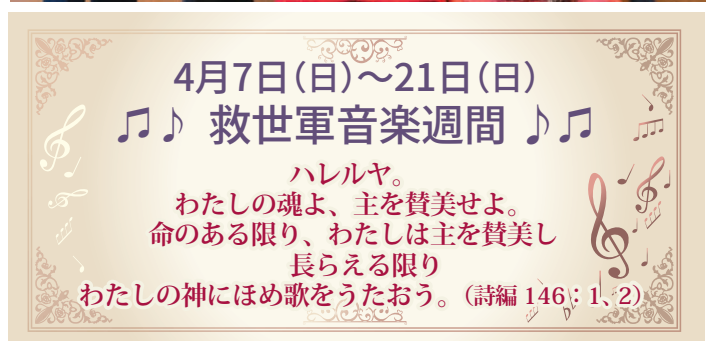
12月24日(日)、聖別会の席上、足立和美准兵士の兵士入隊式がおこなわれました。『ときのかえ』1月1日号に証言が掲載されています。戦友一同、喜び、神様に感謝する時でした。



呉小隊

●クリスマスサンデー、下士官任命

12月24日(日)、呉小隊ではクリスマスストーリーのプログラムに沿ってクリスマス聖別会を守り、小隊士官藤井健次大佐補の司式で、吉田有書記及び吉田輝美会計の下士官任命がおこなわれました。また、集会後には賛美と交流、クリスマスプレゼント交換をして楽しみました。



兵士入隊をして

仙台小隊 永尾晶仁 あきまさ

私は昨年（二〇二三年）の四月から作業療法士として地元の老人保健施設で勤務しています。一昨年の五月から七月の二カ月間、家族の元を離れて長期の臨床実習をしました。実習では大変なことばかりで心が折れそうになった時や、実習指導者から熱意指導のあまり存在さえも否定され、「何のために生きているのだろう」と思ったこともありました。

ださる。わたしの頭に香油を注ぎわたしの杯を溢れさせてくださる。命のある限り 恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り生涯、そこにとどまるであらう。」

この箇所は毎週実家から来てくれていた両親に教えてもらいました。この箇所を読んだ時に、「ただ生きているだけでもよい」、生きているだけで神様の恵みを受けられることを知りました。また、ナイトデライトのアルバム「nonfiction」の中の「大切サウンドゥ」という歌を聞いた時に、当たり前の生活が神様からの導きであること、当たり前の音に耳を向けると幸せであることに気がつき、宿泊施設で号泣したほど、神様への感謝の気持ちがいっぱいになりました。

二カ月が過ぎ、実習終了後に仙台へ戻り礼拝に出ました。礼拝では詩編二三編五節の説教を聞きました。そして神様への感謝と神様のもとで一生生活していきたいと強く思い、神様を信じ、救世軍兵士になることを決意しました。

また昨年の二月には作業療法士の国家試験がありました。大変な道ではありましたが合格し、無事に作業療法士になりました。今年は老健で勤務していますが、まだ自分はどんな作業療法士になりたいか具体的には決まっていません。私は仕事では要領が悪く不器用だと感じてしまう時があります。たまに自分のことが嫌いになることもあります。でも、神様は私を、そのままで十分だと聖書から言ってくださっています。だから不器用であっても必ず自分にしかできない事があると思います。そのため今、自分探しをしているところでもあります。ただ、今、私が強く考えていることは、病气やケガを負い「生きる力」を失いそうになっている人や、不安で「生きにくさ」を抱えている人に、リハビリを通して「生きる力」を与えられるようにしたい、ということです。

札幌三園

●職員新年交流会

1月12日（金）夕、札幌小隊会館において、札幌三園職員新年交流会をおこないました。コロナのために数年開催できない時が続いていましたが、久しぶりに集まり礼拝と交流の時をもちました。席上、桑園保育所の亀谷知代職員に20年永年勤続の表彰がなされました。（参加者30人）



3月1日（金）世界祈祷日

今年のテーマは、「パレスチナからのメッセージ あなたがたに勧めます……愛をもって互いに忍耐なさい」（エフェソ4:1～3）です。

札幌小隊

●司令官夫妻出陣

2月4日（日）、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出陣。保育園の職員も聖別会に参加しました。（会衆42人）

5日（月）には、桑園保育所と菊水上町保育園も訪問し、子どもたちと集会に参加しました。



子ども礼拝で英語の賛美を紹介

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース !!

東京東海道連隊

●ニューイヤーラリー

1月7日(日)午後2時30分から、山室軍平記念ホールで「ニューイヤーラリー」(これまでの「新年救世軍人大会」から名称変更)がおこなわれました。

浅野あゆみ兵士(横浜)のピアノの前奏で心を備え、渋谷小隊タンバリン隊の操練で開会しました。連隊長中島美和大尉と月島小隊士官平本祐子大尉が司会進行し、2023年に新しくジュニア・ソルジャー、准兵士、兵士となった方々を紹介、歓迎しました。続いて青少年部長朝澤義人大尉と朝澤まりこ大尉のリードで連隊内の新成人を紹介し、一人ひとりの人生の節目を思い、神様の祝福と守りを朝澤まりこ大尉が祈りました。

今年の軍国標語「世代から世代へ」を受けて、集った戦友方が世代ごとに賛美の歌を歌いました。70代以上は『救世軍歌集』179番「わが生涯はあらたまりぬ」を吉田恭子少佐と坂本恭子少佐のリードで、40代～60代は「鹿のように」を阪本智之兵士(月島)と加藤信一兵士(月島)のリードで歌いました。小谷野みぎわ唱歌隊長(京橋)が神様の御計画のすばらしさと子ども伝道の恵みを証しし、その後、30代以下の世代が今年のテーマソング「永遠にあなたと」を、ラップとギター、ピアノの伴奏で、子どもたちも加わって賛美しました。

司令官スティーブン・モーリス大佐が詩編145:1～7よりメッセージ。「救世軍に集うそれぞれの世代は異なった背景をもち、それぞれの強みをもっている。若い世代は年配の世代の真実さに学ぶとともに、年配の世代は若い人々の声に耳を傾ける必要がある。これからの時代に人々

の魂をキリストに勝ち取るために、心を尽くしていこう。神はすべての世代の必要に心を留めておられる。神の御言葉というバトンを次の世代に渡し、聖書に基づいた価値観を救世軍の中で実現していく一年としたい。神は御座におられ、聖書の言葉を通してわたしたちに語り続けてくださる。神がしようとしておられることを、共に見させていだこう。」

招きにこたえて恵の座に進み出て祈る方々がありました。ウェンディ・モーリス大佐が閉会の祈りを献げました。献金をし、最後に『救世軍歌集』147番「神のたまよきたりつどえ」を会衆皆で歌いました。新年のスタートに、多くの戦友方が集い、神様の恵みにあずかる時となりました。(会衆90人、恵の座6人)



渋谷小隊タンバリン隊



世代別の賛美(70代以上)



40～60代の賛美リード



小谷野唱歌隊長



世代別の賛美(30代以下)



メッセージを語る司令官

りを通して、「マリアやヨセフが神の御子イエスの父母となるように選ばれ、神様に与えられた使命を果たすことができたように、必要なものはすべて備えられている。美しい蝶は、幼虫→さなぎ→蝶と成長していく。幼虫の姿の時から、その内側に将来、蝶として羽ばたくために必要なものが備えられている。わたしたち一人ひとりにも使命が与えられている。神様はその使命を果たすために必要なものを、必ず備えてくださる」とメッセージしました。その後、グループに分かれて、メッセージを受けて思うところを分かち合い、祈る時をもちました。

礼拝後、カフェテリアに移動し、おいしいクリスマスディナーをいただきました。しもべあのかくも登場し、楽しくゲームを導きました。どのテーブルも2教団の兄弟姉妹が座り、楽しい交わりの機会でした。最後にキャンドルサービスをし、救世軍の青年たちのブラスバンド奏楽で「きよしこのよる」を賛美し、解散しました。

礼拝では、御言葉に真剣に向き合い、思いっきり賛美す

る青年たちの姿がとても印象的でした。

(参加者42人)(青少年部報)

●連隊ユース・カウントダウンパーティ

12月31日～1月1日、杉並小隊・総合センターを会場に開催しました。最初に賛美をし、朝澤義人大尉がショートメッセージをしました。その後、参加者と一緒にゲームをしたり、楽しく交流して過ごすことができました。ふだん味わえない時を一人ひとりが味わったことを感謝いたします。(参加者22人)(青少年部報)



YP (青少年部)・

ファミリーニュース

静清小隊 ●献児式



2023年11月19日(日)、渋谷小隊聖別会の席上、小隊士官 勝笹実香大尉の司式により、浜野真之介くん(5歳)、浜野ひか梨ちゃん(2歳)の献児式がおこなわれました。

お母さんの浜野典子さんは静清小隊の兵士ですが、ご自宅から一番近い小隊で、ということで渋谷小隊での式となりました。祖父の永田龍彦さんも静岡から駆けつけ、



東京東海道連隊

●連隊ユースクリスマスパーティ

12月10日(日)、東京都足立区にある神の家族主イエ



祝 成人

今年も救世軍各所で新成人をお祝いしました。

高崎小隊：岡田真さん

大森小隊：原敏己さん

静清小隊：神尾そよ花さん

名古屋小隊：手縄晃さん

名古屋小隊：鳥丸和揮さん

京都小隊：竹原一航さん

京都小隊：竹原一穂さん

京都小隊：関洋利さん

「お一人おひとりに神様の豊かな祝福がありますよう、お祈りいたします。」

出席しました。静清小隊にとっては、大きな恵みであり久しぶりの明るい話題となりました。渋谷小隊戦友の皆様にも支えられ、祝福されて、感謝あふれる時となりました。

帯広小隊 ●ファミリーソング

2024年1月30日(火)、連隊女性部書記石坂奈緒美少佐のリードでファミリーソング(乳幼児と親のための音楽と交わりのプログラム)をおこないました。初めての試みでしたが、0歳から2歳までの子どものいる6組の親子が参加し、歌やスキンシップを通して親子の触れ合いを楽しみました。3人のお父さんたちも参加しました。子どもたちも一緒に食べられる煮込みうどんを戦友がつくり、みんなで子育てのことなどを話しながら、交わりの時をもちました。

今後、このプログラムを通して、地域の子育て中の親子が小隊に気軽に来ることができ、小隊が居場所となれるように、と願っています。

ス・キリスト教会にて、神の家族主イエス・キリスト教会と救世軍の合同のユースクリスマスパーティがおこなわれました。前半は、神の家族主イエス・キリスト教会と救世軍の賛美チームの導きでたくさんの賛美を献げた

後、神の家族主イエス・キリスト教会の青年たちの導きでアイスブレイクゲーム。その後、東京東海道連隊長 中島美和大尉がクリスマスストーリー





社会鍋による支援 江東小隊

●こども食堂「マナ」

毎月第三金曜日に継続しています。
2023年12月15日(金)は、「ほっともっと」チキン南蛮弁当、地域の皆様から寄せられたお菓子、食料品、お米、

ヒルソング東京様からのクリスマスプレゼントのクッキーを提供しました。プレゼントを受け取った子どもたちはとても嬉しそうでした。12月、小隊の玄関前に置いてあるフードバンクボックスには、いつもにも増して地域の皆様から多くの品物が届いていました。また、この日もベアリングス・ジャパン株式会社のスタッフさんが笑顔でボランティアに加わってくださいました。様々な形でのご協力をいただき感謝です。

2024年1月19日(金)、寒い中、多くの方が来場されました。「ほっともっと」とりめし井、寄贈品のお菓子、食料品、お米などを提供しました。令和6年能登半島地震の支援活動のための社会鍋を立てたところ、温かいご協力をいただきました。お小遣いの中から社会鍋へ寄付してくれた子どもさんがありました。感謝します。



12月 奉仕者一同

杉並小隊 ●杉並みんなの食堂

毎月第二火曜日に開催し、12月12日(火)はクリスマススペシャルとしておこないました。メニューは鶏の唐揚げ丼でした。調理はブース記念病院の協力をいただいています。缶ジュース、お米、バナナ、クッキーとケーキなど、企業や他の教会、支援者からの多くの寄贈品があり、皆様に提供することができました。また、バザー場から子ども服の出張販売をおこないました。今回はスタッフによるピアノとサックスのミニコンサートがあり、多くの方がイートインスペースで、教会でのクリスマスの雰囲気味わっておられました。

10回目を迎えた2024年1月9日(火)、メニューはソースカツ丼でした。151の方が受け取りました。年配の方など新しい方の利用も増えてきました。これからも多くの方に「みんなの食堂」を利用していただきたいと願っています。



12月の会場のようす



あそびコーナー



子ども服の出張販売

横浜小隊 ●冬季街頭給食

1、2月の毎週水曜日、社会鍋慰問活動として、街頭給食をおこなっています。温めたレトルト食品、衣料品、生活用品等を毎週少しずつ品物を変えて提供し



ています。小隊外部からも3人の方がボランティアとして参加してくださっています。毎年この活動を続けており、今年は毎回40人ほどの方が受け取っておられます。1月31日(水)には温かいほうじ茶を配り、好評でした。

3月11日 東日本大震災から13年

時間の経過とともに、復興や生活の再建状況は変わってきていますが、あの震災で大きな影響を受けた方々を覚えお祈りしましょう。

〔ご案内〕
311を忘れない 愛と希望のコンサート
3月11日(月) 13:30 開演

会場：ビーワン教会(石巻市渡波根岸前154-3)
 出演：ゴスペル亭パウロ、当重茜、横山大輔・和子、
 カイラニ・デイ、救世軍ジャパン・スタッフ・バンド

〈連載・第25回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(9) この世で生きることへの呼びかけ

(承前) 彼女(マーガレット・ヘイ)は続けます。「コロomboでの南アジア地域士官のための士官学校で、メソジスト教会の総理(president)、デュリープ・フェルナンド牧師(the Reverend Doctor Duleep Fernando)が講演をおこない、貧困や戦争で人間性を奪われたこの国の何百万の人々の顔を見なさい、とおっしゃいました。彼の話によると、コロomboでは60%の人が悲惨な貧困状態にあり、そのうち半分は都市のスラムに住んでいる。調査によればスラムの住人の50%以上は公衆トイレを使用し、16%は隣家のトイレを使用、15%は個人のトイレ、9%は全く持っていないということでした。

『スラムの子どもたちには時間はあるが学校にはあまり行けず、手本となる人物はなく、いるのは麻薬密売人だけ。希望を胸に家族は都会へ出てきたものの、頼れる人はなく、無力感とともに次第に不安や恐れが生まれ悲観的になり、それが決定的になってしまう。同じような状況は世界中の何千という都市で見られる。人々は暴力、干ばつ、疫病、あるいは腐敗に悩まされているが、なすすべもない。』

フェルナンド師は参加者たちに、無関心で変化を好まず、裕福な人々や中流階級の価値観が主流となっている教会の実情を見るように迫りました。『クリスチャンたちは貧しい人たちにどのくらい出会っているか?』

コロomboでは、人々のニーズが大きすぎて、多くのクリスチャンたち自身の生活とはかけ離れているように思えますが、すべての人の命が尊いというのがキリスト教の精神です。どんなに貧しくても、知恵が遅れていても、罪深くても、肉体に傷があっても、すべての人に神の印が押されています。その人の内に神を認めたなら、わたしたちはその人のためにできる限りのことをするのはないでしょうか。『傷ついた世のいやし』そして『社会の不正義に向かって預言者的な証し』をすることは、委員会が提唱したように、希望的観測以上のものとならなければなりません。」(万国社会正義委員会2007年7月の序論で、救世軍は宣教におけるこの分野の働きを強化する決意を示している。)

キャンベル・ロバーツ(Campbell Roberts)少佐の考えが委員会に紹介されました。

『「わたしは弟の番人でしょうか」というカインの問いは、社会のつながりを否定し責任を逃れようとするもので、間違った応答です。神様はわたしたちを兄弟の番人であると言われます。そして、カルバリでそれを示されたのです。』

キリストの完全な愛を受け取ったわたしたちは、正義や平和や平等、聖潔について、世の救いと再生のための業を通して純粋に証しするよう求められています。わた

したちは、福音による解放の宣言を単に精神的なものとし、厳密な社会分析から切り離す言葉にすることを避ける必要があります。わたしたちは、貧しく、見捨てられた人々の苦しみに対して主がおこなったとおりのことをするべきであり、隣人に対する愛を、文化、宗教、民族、性別や国を超えて広げていく必要があります。言葉と行動が一致した時、福音の力と魅力は根付くでしょう。

キリストは遠く離れていたものを近くへ引き寄せ、敵意という隔ての壁を打ちこわしてくださったのですから、社会が分断されているのはクリスチャンのビジョンではありません。クリスチャンのビジョンは、人々が共にいて、互いに愛し、夢や希望を分かち合い、創造性に富んだ支え合いに頼ることです。キリストにあって、羊飼いがすべての羊を囲いの中に導くように、誰も排除してはなりません。居場所がなくてさまよう、安住の地を求める人々がいるこの世界で、これは根本的な教えです。」

どうしたら、わたしたちがキリストに^{ささ}げる奉仕がこのビジョンと一致するでしょうか。

委員会は、喜んで自分自身を^{ささ}げることを支持します。神様御自身がその価値を認めてくださるでしょう。

質問

1. 神様がわたしたちに与えられた賜物を、どうすれば世の救いのために有益に用いることができますか。
2. わたしたちが生きるべき神の国の僕の価値は何ですか。
3. わたしたちの交わりにおいて、自己犠牲とキリストのように生きることは、どれほど表されているでしょうか。
4. 神様はどのようにして、わたしたちをあるべき姿にしてくださいませか。

参考になる聖書箇所

ヨハネ13・3～17、コリント一12・7～11、13・1～13 コリント二8・9、フィリピ2・5～11、コロサイ3・23、24

(10) 信仰を養うことへの呼びかけ

わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。靈的に成熟し、教育的にすぐれた人物を得て訓練するために、新しい方法を研究しましょう。聖書に基づき、文化との関連性を持ち、教育的に健全な学びのプログラムやイベントを開発しましょう。また、調査研究、創造性、多様性を促進する学びの環境を創出しましょう。

わたしたちの伝道には、信仰的な生活とこの世界でのミニストリーのために整えられた熟練の兵士たちの編隊が欠かせません。戦略的にも、互いを支え合う家族としても、クリスチャンの共同体は、説教や教えることにより、また、礼拝や交わりを通し、癒しと支援を通して、成熟へと成長する機会を提供する責任があるのです。

(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場

第11回「死刑」(2)

見解表明の背景と状況

死刑は今でも論議的的となっています。世界の大多数の国々では廃止されましたが、いくつかの国においては、いまだに合法となっています。

ある国々では死刑宣告が国家機密となっているので、正確な数の報告は難しいのですが、毎年、何百人もの人々が処刑されていることがわかっています。

該当する法律の制度によると、死刑宣告が下されるのは、殺人、テロ行為、強姦、誘拐、覚醒剤取引、神への冒瀆、その他の犯罪です。

死刑の執行は国によって、様々な形をとります。例えば、絞首刑、銃殺刑、致死量の麻薬注射、電気死刑、ガス処刑、打ち首の刑、石打ちの刑などです。

しかしながら、死刑が終身刑以上に犯罪の抑止力があるという証拠はどこにもありません。

裁判における誤審から、結果として死刑という判決が出るということもあります。ある状況において、審理中の人が貧しかったり、少数民族の人であったり、精神病を病んでいたたりする場合に、死刑を宣告される可能性が大きいということを報告している調査があります。それに加えて、ある人たちは死刑を宣告された後で、無罪であったことがわかるというケースもあるのです。

死刑宣告を受けた人々を含めて、投獄された人々が刑務所にいる間に改心した例は数多くあります。霊的カウンセリングと牧会ケアのための努力は、法律、法廷、刑務所、矯正プログラムを支えつつ、人々の生活を変える重要な役割を果たすのです。

救世軍の立場の土台となるもの

人は皆、神にかたどって創造された(創世1:27)ので、人の命には大切な価値があります。罪は命の形を損なうことがあります。命を抹殺することはないのです。すべての人は、例外なく、年齢、性別、人種、宗教、健康、社会的地位、何かを成し遂げる力、などに関係なく、神にとって価値のあるものであり、神の創造の中で特別な場所を得ているのです(詩編8:5)。人がどのようなことをするかにかかわらず、その人の命の価値と尊厳を消し去ってはならないのです。生きる権利は万人に共通のものです。聖書は、人間の生命は神聖なものであり、人に命を与えるのは神である(使徒17:25)と、はっきりと示しています。

生命の尊厳にもかかわらず、「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなってい」(ローマ3:23)と聖書は教えています。罪が支払う報酬は死ですが、神は恵

み深く、賜物として命を与えてくださるのです(ローマ6:23)。私たちは神の恵みと憐れみを受けるにふさわしい者ではありませんが、それを受けることができるのです(エフェソ2:8)。エゼキエル書の中で、神はこう言っておられます。「わたしは悪人の死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによって、生きることを喜ばないだろうか。」(エゼキエル18:23)

福音は、堕落した人類に、希望と罪の贖い^{あがな}を提供しています。私たちは神の恵みを受け取る者として、その恵みを他の人々に伝えていくようにと召されているのです。この恵みはイエス・キリストの生涯と教えの中に示され、実行されました。キリストに従う者たちは、キリストに似た生活をしたいと願い、復讐や憎悪ではなく、正義と謙遜と恵みに突き動かされて生きるのです(ルカ6:27~31)。ローマの信徒への手紙はこのことについて、はっきりと教えています。「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる』と書いてあります。」(ローマ12:19)

聖書は、不正な行為によって苦しむ人の痛みを認め、そのことで傷つく人々を黙らせることはしません。「主よ、……いつまで」ですかというのは、不正が正されるようにと叫ぶ人々の嘆きの声です(ハバクク1:2)。詩編147編3節にはこうあります。主は「打ち砕かれた心の人々を癒し その傷を包んでくださる」。同様に、コリントの信徒への手紙2章4節には、「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださる」とあります。

聖書の観点から死刑を支持する人々もいます。神が死刑を命じておられると信じているのです。救世軍は聖書をこのように解釈することを支持しません。政府は社会の中で正義をつくりだし、維持するようにと神から定められています。それをおこなうために、正義が要求する時には力を用いる権限が与えられています(ローマ13章)、しかし、現代の国家は、命を取ることをせずに、重大な犯罪を罰する方法をとることができるのです。

実際の対応

1. 救世軍は、救世軍人たちが死刑に関する、聖書的に神学的に健全な理解をもつことができるように手助けします。
2. 救世軍は、世界中の死刑廃止に向けて働く国際的な機関と共に働く備えをしています。
3. 救世軍は、社会正義を擁護する他の組織と共に手をつなぐ用意があります。また、刑事上の改革を支えることになる、死に至ることのない刑罰を定める政府機関とも、共に働く用意があります。

(続く)



創立者 ウィリアム・ブリス 大將 リンドン・バッキンガム（万国本営 英国ロンドン） 日本司令官 スティーブン・モリス（救世軍本営 東京都千代田区） <https://www.salvationarmy.or.jp>

各地の社会鍋 アルバム

2023 年末、2024 年 1 月（令和 6 年能登半島地震を受けて）



①福岡での社会鍋 ②③呉での社会鍋
呉保育所の子どもたちが協力を呼びかけ
た ④八幡での社会鍋 4年ぶりに街頭
でおこなった ⑤京都での社会鍋 ゴス
ペル亭パウロさんも参加
⑥⑦道玄坂にて 能登半島地震のための
緊急社会鍋（記事 6 ページ）

コイノニア・リトリート2024

日 程 3月8日(金)～10日(日)

テーマ「聖書っぽくじゃなく、
聖書的に生きよう！」

特別講師：塚本良樹師（KGK 副総主事）

会場：杉並小隊・総合センター別館（アネックス）

対象：18～45 歳

※詳細は青少年部からの案内をご覧ください

酒害強調週間

3月24日(日)～31日(日)

お酒は人生に深刻な悪影響を与えます。
周りの人にも酒害について伝えましょう

主催：本営青少年部

中高生キャンプ

テーマ イエス様しか勝たん！

進級、進学前にみんな集まれ！

新しい一年、神様と一緒にスタートしよう！

キミの参加を待っているよ。

日 程：4月1日(月)～3日(水)

会 場：奥多摩バイブルシャレー

対 象：12～18 歳

キャンプファイヤー、デボーション、礼拝など

※詳しくは青少年部からの案内をご覧ください

(取扱支部)

発行日及び定価

発行日

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

定 価

福音版・一部 四〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号 十二月一日号

振替・〇〇一八〇五四四〇〇

印刷兼 救世軍

印刷人 代表者 スティーブン・モリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

神田神保町二ノ十七

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 株式会社ヒーアンドエス